Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
23A5	昭和学院	26	21	26	26		99
	市立船橋	18	10	10	16		54

昭和は#12、#8のインサイド勝負とリバウンドシュートで得点を重ねる。市立船橋も#16の３P#4の1対1などで粘りを見せるが前半昭和リードで折り返す。
後半も流れは変わらず市立船橋は早めに選手を交代し調整を図りながら次の戦いへの勝負に切り替えた。終始ゲームの主導権を握り昭和学院が快勝した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
23B5	千葉経大附	15	22	21	15		73
	千葉英和	19	14	13	17		63

決勝リーグ、千経大附-千葉英和は両チーム譲らない好ゲームとなった。序盤、英和は経済のマンツーマンDefに対し3Pが当たる。対する経済は#7の安定したプレーで英和に食らいつく。後半、英和はオールコートマンツーマンディフェンスでミスを誘うが、経済は落ち着いて対応。逆に#12の外角シュートで確実に得点を重ねリードを広げていく。終盤、英和の激しいディフェンスを辛くも振り切った経済が接戦をものにし今大会初優勝に向けて大きな1勝を飾った。

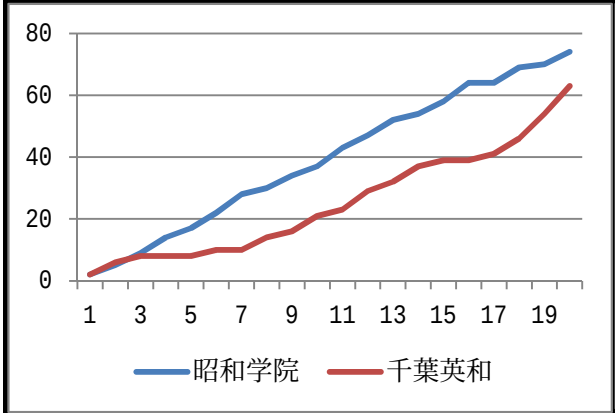
Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
23A6	市立柏	17	13	24	21		75
	幕張総合	15	10	12	19		56

インターハイ出場をかけた初戦は市立柏が幕張総合を振り切り勝利。
スタートから王者市立柏に対し幕張総合はディフェンスを仕掛ける。＃４、＃８をフェイスガードで守りトライアングル・ツーで柏のリズムを崩しにかかる。対する市立柏もマンツーマンでしっかり守り幕張総合にリズムを掴ませない。前半は柏が5点リードで終わる。後半出だし、市立柏は好スタート。＃４が３Pを2本沈め、さらに激しいディフェンスから速攻を繰り出すと第3Qで17点リードを奪い勝負を決めた。粘る幕張総合を振り切った市立柏が1勝を手にした。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
23B6	柏日体	17	5	8	20		50
	市立船橋	33	27	32	32		124

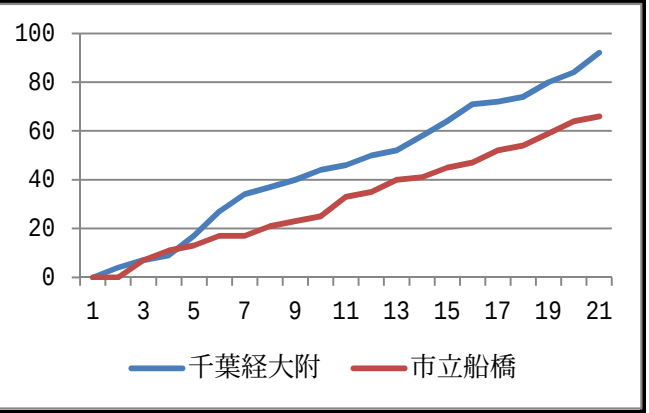
得点源＃７を欠く柏日体、ゲームの初めはリズムよくシュートが決まったが、徐々に市立船橋の堅い守りに阻まれ苦しい展開に。主導権を握った市立船橋は得点を重ね33-17で１Q終了。2Qになっても船橋の勢いは止まらず。たまらずタイムアウトの柏日体。ゾーンディフェンスを駆使し流れを引き寄せようとするが、60-22で前半終了。後半に入っても勢いは続き終始、攻守にわたり圧倒した。ベンチメンバー全員を出場させる余裕の展開で市立船橋が勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24A1	昭和学院	17	20	21	16		74
	千葉英和	8	13	18	24		63



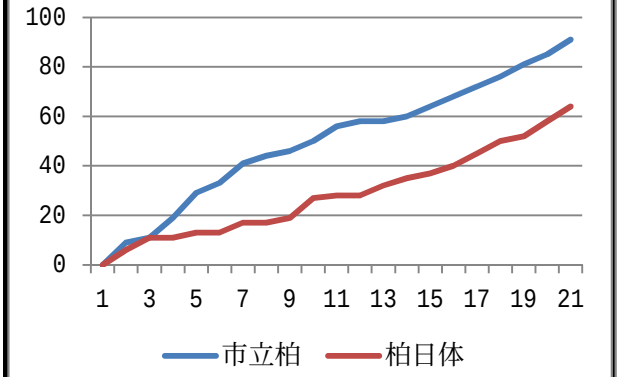
両チーム、ハーフマンツーマンでスタート。千葉英和＃5のスティールからのシュートが先取点で始まったが、すぐに昭和学院＃6が点を返す。第1Q、第2Qは昭和学院の粘り強いディフェンスで千葉英和は思うように攻められず、点数が伸びなかった。その反面、昭和学院は＃8，＃12のインサイドを中心に攻めファールを誘い、フリースローなどで点を稼ぎ、前半終了。後半、どちらも積極的に攻めるが、点数の差は縮まらない。しかし、第4Q4分に千葉英和＃5の立て続けのスリーポイントから、3連続ポイントで点数は縮まるが、前半の点差が響き74－63で、昭和学院の勝利。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24B1	千葉経大附	27	19	25	21		92
	市立船橋	17	16	14	19		66



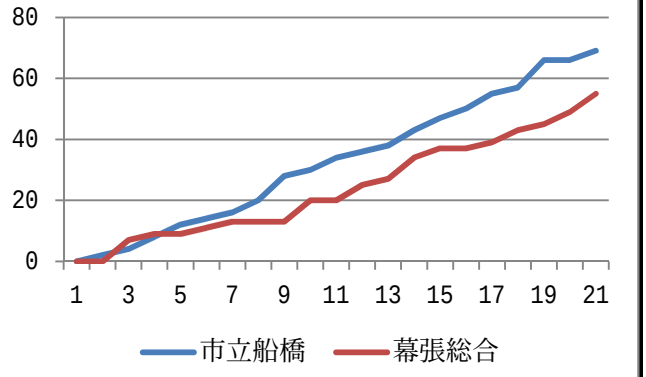
両チームマンツーマンでスタート。千葉経済は積極的な1対1で点を重ねるが、市立船橋も＃4、＃16のカットインを中心に流れをつかむ。1Q残り2分、市立船橋のファールが重なって千葉経済は確実に点に繋げていった。第2Qも市立船橋はファールがかさみ、経済のペースのまま試合が進んだ。第3Q、市立船橋はディフェンスで千葉経済を圧倒し、10点差まで追いつめるが、千葉経済の速いパス回しで市立船橋のゾーンプレスを崩し、点差を広げていった。第4Q、経済は速攻や1対1で加点していき、市船に流れを渡さないまま92－66で千葉経済が勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24A2	市立柏	33	23	12	23		91
	柏日体	13	15	17	19		64



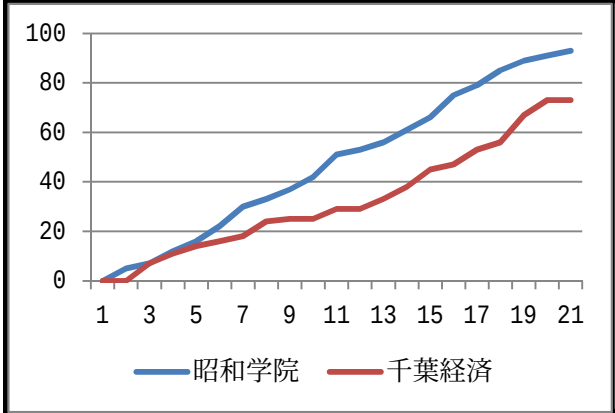
両チーム共にマンツーマンディフェンスからスタート。市立柏は＃5のゴール下シュートを中心に得点を伸ばす。柏日体は1対1でディフェンスを抜くが、最後のシュートが決まらず得点が伸びない。その一方、市立柏はリバウンドが取れず、ファールが重なる。それが得点に響き、柏日体が一時同点まで追いついたが、市立柏の＃4，＃8の3Pポイントがきまり、一気に市立柏がリードを広げ1Q終了。2Q、3Qは両者疲れが出たのか、シュートが決まらなくなった。ロースコアのまま4Qへ。4Qは、前半のようなスピードを取り戻し両者攻め合いが始まる。柏日体は1対1からの合わせで得点を伸ばす。市立柏も＃4，＃8の調子が戻り外角のシュートが決まる。柏日体はラスト2分でプレスをかけるが、ファールが重なり、それをチャンスとした市立柏は、フリースローを確実に決め、柏日体を突き放した。柏日体は前半の得点差を縮めることができず、91－64で市立柏が勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24B2	市立船橋	14	20	16	19		69
	幕張総合	11	9	17	18		55



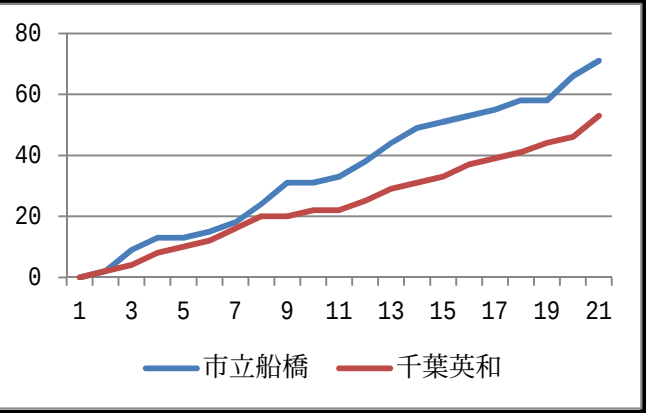
前半先制点は市立船橋＃14からゲームスタート。その後両者ともに攻めるが中の守りが強くなかなか点につながらない。そのなかで市立船橋の＃5、＃14が高さを活かしたプレーで点を稼ぐ。対する幕張総合は外からのシュートを狙うが市立船橋のインサイドの勢いを止められず、34－20、市立船橋リードで前半終了。後半、幕張総合＃15のシュートで勢いがつき＃7も3Pを決め流れを掴んだ。しかし中と外の合わせで確実にシュートにつなげた市立船橋が69－55で勝利した。両チーム積極的にルーズボールを追う姿は観衆を魅了させた。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24A3	昭和学院	22	29	24	18		93
	千葉経済	16	13	18	26		73



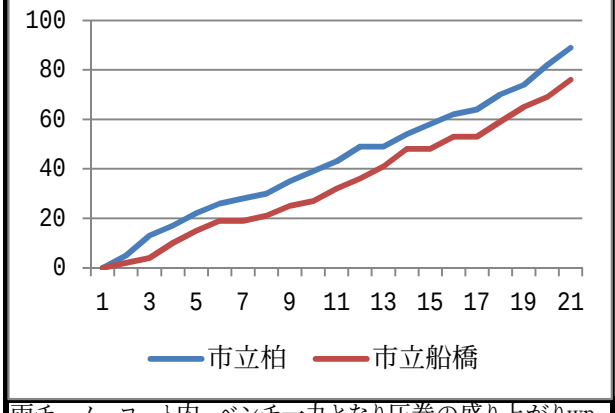
昭和学院は長身を活かしたプレーで先制。千葉経済は＃7の1対1でファールを誘い、流れを掴んだ。しかし、昭和学院の＃12を抑えることができず、昭和学院がリードのまま前半終了。後半、一進一退の攻防が続き、千葉経済はなかなか点を縮めることができない。一時は＃11の3Pや速攻で千葉経済が得点を重ねていくも、外と内のバランスがとれた昭和学院が93－73、全勝優勝でのインターハイへの切符を手に入れた。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24B3	市立船橋	15	18	20	18		71
	千葉英和	12	10	15	16		53



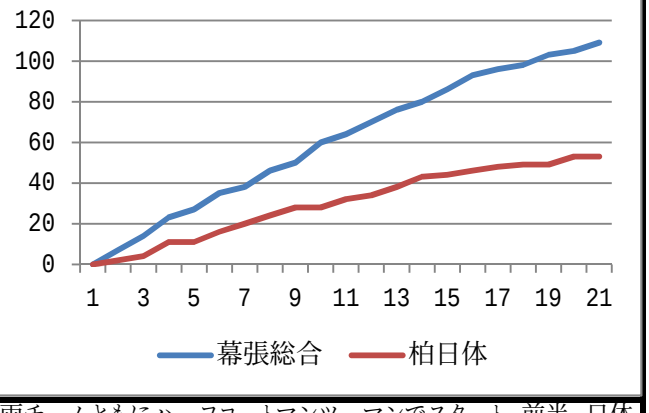
互いにマンツーマンディフェンスでスタート。千葉英和は先取点を決めるが、なかなか流れを掴めない。市立船橋も外角のシュートを打つが、決まらずどちらも流れを掴めないまま、15対12の市立船橋のリードで1Q終了。2Qでは、市立船橋の＃4の連続3Pから流れを掴む。千葉英和はドライブなどで、シュートに行くが決まらず得点が伸びない。千葉英和はタイムアウトを取るが、流れは変わらず32対22で市立船橋のリードのまま、前半終了。市立船橋は2Qに引き続き、3Pで点を稼ぐ。対する千葉英和は、ドライブで攻めるが、市立船橋のディフェンスを崩してシュートまで行くことができず、タイムアウトを取る。タイムアウト後は、千葉英和がドライブでファールをもらいに行き、そこから交互に点を入れ合うが、追いつくことができず53対37で市立船橋のリードで3Q終了。4Q前半は千葉英和のディフェンスの当たりが強くなり、市立船橋の勢いが弱くなるが、後半は、中に切れ込むプレーなどで勢いを取り戻し、得点の差を広げていく。残り1分半で千葉英和が、ディフェンスをオールコートマンツーマンディフェンスに変えるが、あまり点数が伸びず、そのまま市立船橋も逃げ切り、71対53で市立船橋が勝利した。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24A4	市立柏	26	17	19	27		89
	市立船橋	19	13	21	23		76



両チーム、コート内、ベンチ一丸となり圧巻の盛り上がりwpみせて始まった優勝決勝戦。市立柏はマンツーマン、市立船橋は3-2ゾーンでスタート。市船はガード＃6が小柄ながらスピードを生かした攻め、それに対して市立柏は＃4の3Pがよく決まる。市柏、市船ともに＃5の両センターが高さパワーでゴール下が激しい競り合いをみせた。中盤、どちらも少し息切れかファールが重なり足踏みで後半へ。後半、市立柏の＃4が3Pを決めれば市船の＃15が3Pを決める攻め合い。一時、市立柏の流れが止まったように見えたが、＃8のレイアップが決まると再び激しい攻防戦が繰り広げられる。最後の最後まで一進一退の攻防であったが、序盤にリードを保った市立柏がインターハイ出場を全勝優勝で飾った。

Game	Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
24B4	幕張総合	35	29	29	16		109
	柏日体	16	16	14	7		53



両チームともにハーフコートマンツーマンでスタート。前半、日体は粘り強い幕総のDFに対してなかなか簡単にはシュートを打たせてもらえないが、＃4のドライブや3Pを中心に攻める。一方、幕総は＃5、＃6のインサイドプレーやリバウンドからのシュートで得点を稼ぎ、64-32とダブルスコアで前半終了。後半、日体＃18のインサイド、＃5のドライブからファールを誘われファールが重なり苦しい幕総だが、最後まで確実にシュートを決め続け109-53で幕張総合が一勝を挙げた。